

医薬協ニュース

379号

2003 年(平成 15 年) 2 月

●目 次●

- ・ トピックス ジェネリック使用促進及び医療経営 … 1
- ・ 平成15年 1 月度医薬協理事会報告 …………… 2
- ・ リレー随想 (大原 誠司)
21世紀の地図 …………… 3
- ・ 活動案内 …………… 5

■編 集

医薬工業協議会
総務委員会広報部会

■発 行

医薬工業協議会

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 4-3-10

日本橋銀三ビル

TEL03-3279-1890 FAX03-3241-2978



ジェネリック使用促進及び医療経営

政府の総合規制改革会議は、このほど「規制改革の推進に関する第二次答申」を行い、その中で後発医薬品の使用促進については、14年度中に措置（逐次実施）としたうえで、次のように述べている。

医療費の効率化等の1つの方策としてジェネリック医薬品に関し、平成14年度診療報酬改定において、後発品を処方した場合の処方せん料等を、先発品を処方した場合より高くするなどの取り組みがなされ、その使用が促進されている。現在でも、医師が一般名で処方した場合の患者選択による調剤は可能であり、また、患者の求めに対し医師が認めた場合に限り薬剤名（商品名）での処方の場合においても、患者選択による調剤は可能である。

今後、引き続き、医薬品の品質再評価を行い、後発品を含む医薬品の品質確保を図る一方、後発品使用を一層促進していくために、昨年4月より、後発医薬品の一般名・商品名・企業名・価格等の情報について、厚生労働省ホームページの掲載を開始しているところであるが、このほかにも後発品とその品質の確保についての啓発を進める等、患者が適正に選択できるよう情報提供の充実を行うべきである。

日本医師会は、このほど開かれた中医協調査実施小委員会に4月の診療報酬改定や、10月に行われた入院基本料の減算・外総診の廃止などの影響を調査した「第二次レセプト調査」の結果を提出し、これらが医業経営に重大な影響を与えていることなどを明らかにした。

調査は13年と14年10月～12月の診療報酬請求書を会員医療機関から提出してもらい実施。10月診療分の9516医療機関分（レセプト件数約1049万件）のデータでは、前年同月との総点数対比で全体ではマイナス5.83%と4月～6月時点よりもマイナスがさらに拡大。とりわけ老人分の入院外総点数対比は、マイナス11.90%と大きく落ち込んでいることなどがわかった。日本医師会、日本薬剤師会は独自にそれぞれ日医・緊急医業経営実態調査、緊急保険薬局経営実態調査を行い、2月中旬にもデータを分析し中医協に報告する予定だ。

平成15年 1 月度医薬協理事会報告

1 月度理事会が 1 月10日東京プリンスホテル会議室において開催されましたので、附議事項についてお知らせいたします。

出席者：理事・監事12名、委員会・事務局 3 名

I. 報告事項

1. 平成14年度執行状況及び見込みについて
2. 日本薬剤師会との会合について
3. ㈱生物技術研究所からの文書の取り扱いについて（回答）

II. その他

1. 平成15年度厚生労働省予算編成について

平成15年 1 月 講演会及び祝賀会

理事会終了後、㈱じほう取締役編集局長志鷹健次郎氏並びに健康保険組合連合会副会長（中医協委員）下村 健氏をお招きし講演会を開催した。

引き続いて、新年祝賀会を開催し、会長挨拶、厚生労働省医薬局安倍審査管理課長、岸本日薬連理事長、市川製薬協理事長、八代日薬連保険薬価研委員長よりそれぞれご祝辞を戴いた後、吉田副会長の乾杯の発声により開会。

和やかな雰囲気の内、盛会裡に終了した。

なお、祝賀会出席者は、会員74名（運営委員、事務局含む）、行政15名、記者16名、関係団体等 6 名、計111名であった。



21 世紀の地図

大原薬品工業株式会社

大 原 誠 司

最近、私が一番よく眺めているものが1569年メルカトル作の地球を円筒形に扱った世界地図（投影図）である。昨年の秋、スペインを訪問した際、街を散策していたおりにマドリードのプラド美術館にてコーヒー用マグカップとB4の海図を買ってきたものである。

見ていると実に興味深い。日本はどこかな…??と探すがいつもの日本がない。頭の中にイメージされている日本が見当たらない。ここが多分インドで、これが中国。するとこれが……なぬ？日本。一番右端。多分間違いないが、文字通りの極東地域にあるものはほとんど象の鼻である。（一度興味のある方は、インターネットのサイトで自分の目で見てください。思わず笑ってしまわれる方も多いと思われます。）多分、日本なんだろうなと無理やり納得させる。この投影図と羅針盤を持って、大航海時代を生き抜いたのか？すごい。いや、むしろコロンブスの新大陸発見は1492年、大航海時代は15世紀末から始まるので情報を集めてこの地図が作られたと考えるほうが正解であろう。現代から比べればなけなしの情報を元に、まだ見ぬ世界へ乗り出していく。たくましい海の男達が海図を浮かべる姿が眼に浮かんでくる。情報がないが故に楽しめる。私が思うに今一番欲しい、発揮したいスピリットではないかと思われます。

現状の日本において、情報は溢れかえるくらいにあります。個人レベルにおいても、インターネットからの情報、個人のメール情報等……。高校生、大学生においてもすごい情報量である。バブル経済がはじけた後、グローバル化と共に、世界で最も長寿国である日本において超高齢化社会の到来という局面になっていますが、さあどうするか？国民がその情報を持っていないか？いや情報量は充分ある。現状の大きな閉塞感はどのような地図（絵）を提示できるか、ということであろう。国、企業、個人、それぞれの立場において。

個人レベルにおいてどのように考えていくか？非常に大変な問題であろう。将来が見えない。もしくは見えにくい。このような悩みを抱えている方は廻りに確実に増えているように思われます。実際、業界関係では抗精神薬市場の拡大は顕著である。ストレス社会におけるメンタルケアの重要性。余談ではあるがアメリカの一流企業においては各役員毎に精神科医によるメンタルケアが行われている会社もある。ポジションの高い人ほど、当然仕事量が多く、責任も重い。従って一番ストレスには晒され易いとの発想である。言われてみればその通りである。さすがアメリカ人、この記事をお読みのサラリーマン諸氏。

‘仕事の多いやつほどストレスも多い’このフレーズは使えるかもしれませんね。飲みニケーションによるメンタルケア。必要ですよ。‘じゃあ、一番多いのは私ね’と奥様方にはすぐ反撃されそうですが…。

個人の情報処理能力は自信ないなという方。全く心配する必要はない。最近仕入れたある本によると、人間の脳をコンピューターに置き換えると約1000ギガとのこと。一般的に使っているといわれるのが4%なので、そうすると40ギガ（当然一人あたり）。なんと最新のコンピューターのハードディスク容量と同じ。そんなにないですよ…。というのが、私の目の前の女性の反応です。でも、よく考えてみたら当たり前かもしれませんね。というのは、人間が通常行なっていること、歩行する、しゃべる等すべてが可能なロボットは現時点いません。すごい情報処理能力を各人が持っているのですね。

21世紀の地図（絵）を書くとしたら、イメージとしてはピカソが書く絵画的要素を取り入れるのが最もこの時代にあうのかなと個人的には思っています。少しイメージが違いますがスポーツの周辺視システムもこれに近いと思います。プロ野球の一流選手の情報処理システム。情報がミクロ的にもマクロ的にもあふれているが故に、その周辺全体のイメージ、移り変わりを捉えていくことが重要になるのではと考えています。

ちなみに冒頭の日本が象になっている世界地図。念のために文献をひも解くと陸地輪郭の修正を行えば、ほぼ現在の世界地図、見なれた日本の形と一致します。古今東西、要はものの見方次第ということか？会員の皆様、大変ですがやりがいのある時代、21世紀により良い産業地図、医療業界地図になるよう頑張らしましょう

次号は、オリエンタル薬品工業㈱の佐藤会長にお願いします。

|活|動|案|内|

<日 誌>

1 月 9 日	総務委員会総務部会	医薬協会議室
"	総務委員会広報部会	"
1 月 10 日	常任理事会	東京プリンスホテル会議室
"	理事会	"
"	新年講演会・祝賀会	"
1 月 23 日	薬価委員会	薬事協会会議室
"	薬事・安全委員会正副部会長会	医薬協会議室
1 月 29 日	総務委員会広報部会	"
"	総務委員会総務部会	"

<今月の予定>

2 月 4 日	教育研修常任委員会	医薬協会議室
2 月 6 日	関東ブロック会	薬事協会会議室
"	消費者対応委員会	"
"	総務委員会総務部会	医薬協会議室
2 月 12 日	常任理事会	大阪ワシントンホテル会議室
2 月 13 日	関西ブロック会	大阪薬業クラブ会議室
2 月 18 日	流通適正化委員会	医薬協会議室
2 月 19 日	ジェネリック研究委員会	薬事協会会議室
2 月 25 日	薬事・安全委員会正副部会長会	医薬協会議室
2 月 26 日	総務委員会広報部会	"

/ 編 / 集 / 後 / 記 /

景気が低迷のまま年を越しても、余り代わり映えしない2003年である。それにしても明るいニュースが皆無に等しい。21世紀を迎えて以来多くの人々は、先の見えない閉塞感と、暗中模索の状態。ここ数年来、我々の業界もそんな渦中でもがいて来た様に思う。

今年は干支では未年、未は未来の未でこれからを期待する年まわり、その他「いまだに」「まだまだ」の意味もあり、景気回復を含め、たまたま今年を象徴している様な気がする。又、未は羊、羊を使った漢字の中には、美しい、鮮やか、義（正しい）、祥（よろこび）等々あり、それぞれ考え方も色々だが、羊は生来穏和で、集団で行動するところから、群の漢字のルーツとも謂われ、決して飛び跳ねたり、猪突猛進する年ではなさそうです。

然し、景気の動向や我々の仕事とは別に、近年生命科学の研究は加速し、DNAの解明から遺伝子の産物である蛋白質の探索、等々の研究が更に進めば、近い将来には生活習慣病や難病の治療も容易になる由、いずれ将来は、薬の業界も大きく変わってくる筈です。

現在我が国は、急速な少子高齢化の進展が進む中、厳しい経済情勢など、取り巻く環境の変化に対応するため、昨年は高齢者医療制度の見直しと実施、今年も被保険者の医療費3割負担の実施、更に政府は年内の医療制度改革の策定を目指し、保険者の再編統合、高齢者医療制度の創設、医療提供体制のあり方見直し、診療報酬体系の見直し、政管健康保険の見直し、を予定しており、何れも我々の製薬産業にとり、大きな影響を与える事項です。

又、薬事法の改正により、今年7月施行の生物由来製品への対応から始まり、施行は17年となるが、新たに製造販売業（販売承認）への転換で、製造業に対する全面委託が可能となり、アウトソーシングの活発化が予測されて、会員企業にも大きな影響が想定されます。

一方低迷している景気動向の中で、然もこんな時期に、政府の後発品の使用促進策は、会員には千載一遇のチャンス、然し、ユーザーへのPRを含め、大幅の展開には時間も必要、知恵と努力で、薬事法改正を見据えながら、未年の年回りを念頭に？、2003年を「GE元年」と位置付け、「明るさを求める羊達」元気を出して頑張りましょう。

(T. Y)